



大久保通り沿いに連なる韓流のお店
 (2013年9月22日 金 延景 撮影)

地理空間学会ニューズレター

TOPICS

- ・『地理空間』第7巻2号刊行のお知らせ
- ・第18回例会のお知らせ
- ・第8回大会のお知らせ(第2報)
- ・学会賞受賞者コメント(田林 明)
- ・大会ポスター賞受賞者コメント(阿部依子)
- ・寄贈図書紹介
- ・ミニコラム「地理学の聖地をめぐる」(橋爪孝介)
- ・学会からのお知らせ
- ・コラム「わたしのフィールドから」(金 延景)

『地理空間』第7巻2号刊行のお知らせ

機関誌「地理空間」第7巻2号が2014年12月20日に発行されました。掲載内容は以下の通りです。要旨はホームページでご覧いただけます。

【論 説】

田林 明・大石貴之：首都圏とその周辺における農村空間の商品化による観光活動の地域差

【特 集】

呉羽正昭：オーストリアアルプスにおけるスキーリゾートの継続的発展

池永正人：スイスアルプスの自然環境保全と多様なアクティビティ

市川康夫：フランス中央高地におけるランドネとツーリズム—R.L.スティーブンソン『旅はロバを連れて』—

【研究ノート】

渡邊瑛季：育成基盤の変化からみたスピードスケート競技者育成の地域的差異—長野県佐久地域を事例として—
 矢ヶ崎太洋・吉次 翼：岩手県陸前高田市における東日本大震災後の都市復興と住宅再建

【書 評】

渡邊敬逸：デビッド・W・エジントン著 香川貴志・久保倫子共訳『よみがえる神戸 危機と復興契機の地理的不均衡』

鹿嶋 洋：中村周作著『酒と肴の文化地理 大分の地域食をめぐる旅』

松井圭介：横山昭市著『国際関係の政治地理学—現代の地政学—』

【学会記事】

※誌上で「調査報告」となっておりました渡邊論文および矢ヶ崎・吉次論文は「研究ノート」の誤りです。訂正してお詫び申し上げます。

※会員の方で、本誌がまだお手元に届いていない場合は、学会事務局までご連絡ください。

🌸 第18回例会のお知らせ

地理空間学会では、第18回例会を以下の通り開催いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【題目】

「地理学における知識・文化・創造」

【日程】

2015年3月8日(日) 14:00~16:45

(受付開始 13:30~)

【会場】

筑波大学 東京キャンパス文京校舎1階

東京都文京区大塚 3-29-1

【交通】

東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅下車、「出口1」より徒歩

2分

(参考ウェブサイト)

http://www.tsukuba.ac.jp/access/bunkyo_access.html

【プログラム】

1) 半澤誠司(明治学院大) 14:05~15:00

「文化と経済、そして地理が出会うとき—文化(創造)
産業研究は何を目指してきたのか—」

2) 古川智史(東京大・学術研究員) 15:00~15:25

「広告産業の地理的集積と創造性」

—休憩—

3) 森嶋俊行(東京大・学術研究員) 15:35~16:00

「企業の対地域施策における企業文化の役割—産業遺

産保存活用の事例を中心に」

4) 総合討論 16:00~16:45

※参加費無料、事前申し込み不要です。

※例会後、会場付近で懇親会を予定しています。ふるってご参加ください。



🌸 第8回大会のお知らせ (第2報)

地理空間学会では、第8回大会を下記の通り開催いたします。詳細は順次ホームページに掲載します。

【日程】

2015年6月20日(土): 研究発表, 評議員会, 総会, 懇親会

6月21日(日): 巡検(詳細未定)

【会場】

筑波大学 筑波キャンパス 総合研究棟A棟(予定)

茨城県つくば市天王台 1-1-1

❀ 学会賞受賞者コメント

この度、地理空間学会 2014 年度学会賞の学術賞を受賞された田林 明会員から受賞のコメントをいただきました。

学術賞 田林 明会員（筑波大・名誉教授）

山本正三・田林 明・菊地俊夫編著（2012）：『小農複合経営の地域的展開』（二宮書店）と田林 明編著（2013）：『商品化する日本の農村空間』（農林統計出版）に対して、2014 年度本学会学術賞をいただきましたことに深くお礼を申し上げます。いずれも多くの執筆者による著作で、それらの方々のおかげで今回の受賞になったことをありがたく思っております。

前者は山本正三先生が中心となって、筑波大学人文地理学研究室の関係者が 1970 年代から 2010 年頃までに取り組んだ、霞ヶ浦地域あるいは茨城県内、そして全国の農業・農村地域での地域調査の成果をまとめたものです。その際に、小農複合経営という視点を軸にいたしました。これは山本先生が昔から主張されていたものです。このことから本書はまちがいなく山本先生の業績であり、私はそのご相伴にあずかったというのが実際です。しかし、私も大学院生時代の南伊豆の沿岸集落や黒部川扇状地農村の調査以来、そのような考えでこれまでいくつもの研究を進めてきましたので、本書をまとめる作業に加わることができたことは意義深いものでした。筑波大学の人文地理学研究や地域調査報告（地域研究年報）、さらには地理学評論や地学雑誌に掲載された多数の研究論文から、丁寧な調査結果が十分に盛り込まれており、その時々日本の農業・農村地域の様相を具体的に実証しており、かつ対象地域が全国にまたがるようになるものを選択しました。そして、景観・土地利用と農業経営に焦点をあてて、個々の論文の一部を削除したり修正したりして、全体として系統的・統一的に配列できるようにしました。さらに、編著者の山本先生、菊地俊夫先生と私の 3 人と、二宮書店編集部吉田三男さんや齋藤竜太さんと、箱根で温泉に入って、うまい物を食べて、大いに語り合っ、結論に代えて座談会記録を

まとめました。編集のために相当な時間をかけ、それなりに頭も悩ましましたが、全体としては楽しい作業で、「大塚の地理学」の伝統である徹底したフィールドワークによる調査・研究の成果を具体的に示すことができたと思っています。

もう 1 つの本は、大きく変動し多様化している現代の日本の農村の状況を、「農村空間の商品化」という視点で捉えた研究成果をまとめたもので、私の筑波大学における現役での研究生生活をしめくくるものとなりました。2005 年頃に内外の論文や著書で「消費される農村」や「商品としての農村」、「農村の多面的機能」、「Commodification of rural space」といったキーワードを知り、「農村空間の商品化」という視点を取り入れて、農村地域の性格を探ろうと考えました。農業・農村に関心をもつ全国の 14 人の地理学者に研究分担者になってもらい、科学研究費補助金を得て 2007 年から 2011 年までの 4 年間研究に取り組みました。共同研究者が、北海道から九州まで全国に広がっていたので、年に 3~4 回まわりもちで各地で研究会を行い、それぞれの研究の経過を発表し討論をするともに、合同で巡検を行い現地で意見を交換することができたことが特に勉強になり、楽しかった思い出でした。幸いに科学研究費補助金研究成果公開促進費を得ることができ、単行本として出版することができました。共同研究者の皆様のご協力の賜と感謝しております。

私はその後、「農村空間の商品化による観光振興」に関する科学研究補助金を得ることができ、定年退職前の最後の指導学生の皆さんの協力を得て研究を続けることができました。その成果と先の本に収録することができなかった、私自身のものも含めたいいくつかの事例研究をまとめて、この 2 月に『地域振興としての農村空間の商品化』（農林

統計出版)として出版する予定です。これは、先の本の続編という意味をもっております。そして現在は、カナダのブリティッシュコロンビア州の農村空間の商品化に関する研究に取り組んでおります。将来、続々編ができれば幸せだと思います。定年退職後の現在では、はるかに自由な

時間が多いのですが、体力の減退と緊張感の低下などあって、以前のように迅速に研究成果を蓄積していくという状況にはありません。それでも、今回の受賞に恥じないように、これからもできるだけ着実に研究を継続していきたいと思っております。

❀ 大会ポスター賞受賞者コメント

第7回地理空間学会大会(2014年、立教大学)においてポスター賞を受賞された阿部依子会員から受賞のコメントをいただきました。

ポスター賞 阿部依子会員(筑波大・院生)

この度は「岡山県真鍋島における小中学生をとりまく教育環境の変遷と現状」に対して、地理空間学会ポスター賞を賜り、大変うれしく、光栄に存じます。今回の受賞は、真鍋島の皆様のご協力や先生方のご指導の賜物であり、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。当ポスターは、過疎地域において小規模学校の統廃合が進む中、真鍋島という小さな島の集落が教育基盤を築き、子ども達を支えている様子を捉えた大学4年次の卒業論文が基になっております。調査の際、島民の方の「いろんな研究者の人に同じような話をしてきたが、私達や島には何も返ってこない。」という言葉聞いて以来、あくまでも「よそ者」である自分が研究を通して、地域に何かを還元することと、地理学者として自分の関心のあるものに情熱を注ぐということの間にあるジレンマが常に心にありました。今回の受賞や学会での皆様からいただいたお言葉が、悩みを伴いながらも、日々前進する後押しとなりました。地理

学研究における喜びでもある多くの人々との出会いに感謝しながら、今後も丁寧な研究活動を続けていきたいと思っております。



写真 ポスター賞表彰式にて
(2014年6月28日 新井悠司撮影)

❀ 寄贈図書紹介

山下清海会員、横山 智会員、山下琢巳会員より、著書を寄贈していただきました。

山下清海編著『改革開放後の中国僑郷—在日老華僑・新華僑の出身地の変容』明石書店、284p., 2014年12月。
横山 智『納豆の起源』NHK ブックス、328p., 2014年

11月。
山下琢巳『水害常襲地域の近世～近代—天竜川下流域の地域構造』古今書院、280p., 2015年1月。

ミニコラム 「地理学の聖地をめぐる」

橋爪孝介（筑波大・院生）

筑波大学筑波キャンパスの第1エリアには「大塚の地理学を筑波の地に」と書かれた石碑（写真1）があります。碑面の文字は青野壽郎が書いています。「大塚の地理学」とは、田中啓爾が確立した丹念なフィールドワークに基づいた実証主義的な地理学の学風であり、東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学の所在した大塚の地にちなんで名付けられました。筑波研究学園都市の建設にあたり、東京教育大学が筑波に移転することになった際、地理学系では尾留川正平が新大学構想の策定に尽力しました。これにより大塚の地で育まれた地理学の学風は、途絶えることなく筑波大学へと引き継がれ、ここで学んだ地理学者は、日本はもとより世界で活躍しています。



写真1. 「大塚の地理学を筑波の地に」の石碑

（2015年2月19日 橋爪孝介撮影）

学会からのお知らせ

<事務局からのお知らせ>

2014年会員名簿が7月10日に発行されました。住所変更等がある方は、事務局までお知らせください。

<会計委員会からのお知らせ>

1. 会費納入のお願い

多くの方々から会費の納入をいただいておりますが、若干名、過年度の会費納入がお済みでない方もいらっしゃいます。未納の方は、「地理空間」第7巻2号に同封した振込用紙でお支払ください。納付したか不明な方や振込用紙をご希望の方は、事務局までお問い合わせください。大学を通じて電子振込みをされる場合には、必ず氏名と所属先の明記をお願いいたします。

[年会費の振込先]

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）

口座記号：00120-5 口座番号：779957

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900
店番：019 店名：〇一九店（セ）ロイチキュウテ

ン)

預金種目：当座 口座番号：0779957

受取人名：チリクウカンカ” ツカイ

(ウ) 年会費

一般会員 4,000 円 大学院生会費 2,000 円
学生会費 1,000 円

2. 「地理空間学会学術基金」の募金について

「地理空間学会学術基金」の募金活動について、会員の皆さまの一層のご理解とご援助を賜りますようお願い申し上げます。

[地理空間学会学術基金の内容]

○名称：地理空間学会学術基金

○目的：地理学の優れた研究者を育成することを目的として、その研究活動の充実を図るための資金として活用する。

○募集対象：本学会の活動理念を理解し、本寄付の趣旨にご賛同いただける方。

○ご依頼額：1口2万円（何口でも可能です）

[振込方法]

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）

口座記号：00150-3 口座番号：707452

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店（セ”ロイチキュウテン）

預金種目：当座 口座番号：0707452

受取人名：チリクウカンカ”ツカイカ”クシ”ユツキケン

※ 基金への寄付をいただいた方のお名前は、機関誌「地理空間」やホームページ等に掲載させていただきます。お名前の掲載をご希望でない方は、「匿名希望」とご記入ください。不明な点は、事務局までお問い合わせください。

<編集委員会からのお知らせ>

1. 次号以降の投稿について

「地理空間」第8巻1号は、2015年6月20日の発行を予定しております。原稿は随時受け付けており、査読を経て受理された論文から順次掲載して参ります。内容は最新の論争から時事性、トピック性の高いテーマ、丹念な調査に基づく活きのよい事例研究まで幅広く受け付けております。会員の皆様の活発な投稿をお待ちしております。投稿規定や執筆要領については、地理空間学会ホームページをご覧ください。

2. 定期購読のお願い

本学会の活動を知っていただくため、会員の皆さまの研究室や大学・高校の図書館等での「地理空間」の定期購読をご検討いただけますようお願い申し上げます。ご購入いただける場合には、学会事務局までお知らせください。

3. 「地理空間」掲載論文のリポジトリ等への掲載について

掲載誌が刊行されてから半年を経過した場合には、大学等の学術リポジトリや著者本人のホームページ等へ自著の論文の掲載を認めます。掲載論文の電子ファイルが必要な方は、学会事務局までご連絡ください。

🌸 コラム「わたしのフィールドから」

金延景（筑波大・院生）

東京最大の外国人密集地区として知られる新宿区「大久保地区」には、1980年代以降外国人ニューカマーズの急増に伴い、多国籍エスニックタウンが形成されてきました（図1）。一方で、大久保地区は「新大久保コリアンタウン」として各種メディアで紹介されるように、2000年代以降韓流ブームを契機にコリアタウンに特化してきました。コリアタウンはJR山手線の東エリアを中心に広がっており、特に大久保通り、職安通りと両通りを繋ぐ路地に多くの韓国系施設が分布しています。大久保コリアンタウンには、韓国人ニューカマーズの生活を支える各種事業所やコミュニティ施設のほかに、韓流ブーム以降日本人顧客の需要に対応して韓流関連の財やサービスを提供するビジ



写真1. 職安通りに位置する韓国系大型商業ビル

（2013年1月25日 金延景撮影）

ネスが活発に展開され、多くの日本人観光客が訪れるようになりました。韓国系ビジネスは、同胞顧客を基盤とするエスニック市場に加え、ホスト社会に発生したエスニック・ニッチによって広げられた市場を背景に多店舗・多角経営が行われていくなかで、韓国系大型商業ビルの立地も目立つようになりました（写真1）。

しかし、近年における日韓関係の冷え込みやヘイトスピーチ、円安・ウォン高による韓国財の価格競争力の低下などの影響をうけて韓国系ビジネスは衰退傾向にあります。世界都市・東京の「異文化のサラダボウル」としてダイナミックに移り変わる大久保地区の今後の変貌についてわたしは注目していきたいと思います。

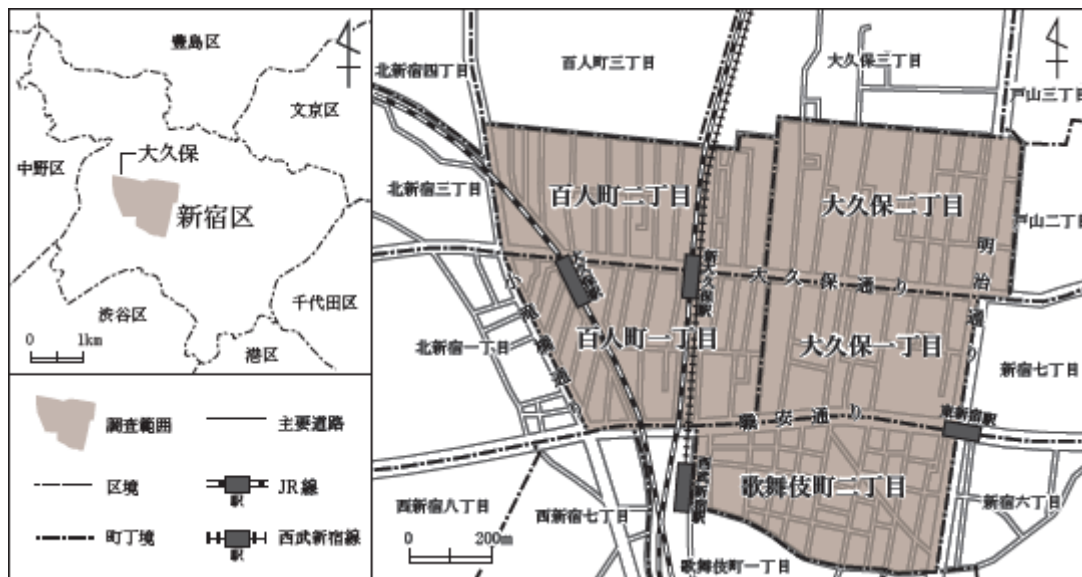


図1 研究対象地域

編集後記

暦の上ではもう春ですが、まだまだ厳しい寒さが続いております。みなさま風邪などお召しになりませぬよう、ご自愛ください。

ニュースレターでは学会に関連した情報を適宜掲載していきますので、掲載すべき情報やご要望がございましたら、事務局までお寄せください。最新の情報は学会ホームページで随時更新しております。本会では、会員間の情報交換の手段として、メーリングリスト (jags-ml@geoenv.tsukuba.ac.jp) を開設しております。すでに多くの方にご参加いただいておりますが、まだ登録されていない方でメールアドレスをお持ちの方は、ぜひご参加ください。

地理空間学会ニュースレター 第21号

発行日：2015年3月5日
発行所：地理空間学会事務局

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学生命環境系地球環境科学専攻内 地理空間学会事務局
TEL/FAX 029-853-6873
E-Mail geospace@geoenv.tsukuba.ac.jp
URL <http://jags.ne.jp/>